

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 22 年 8 月 発行 No. 26 号



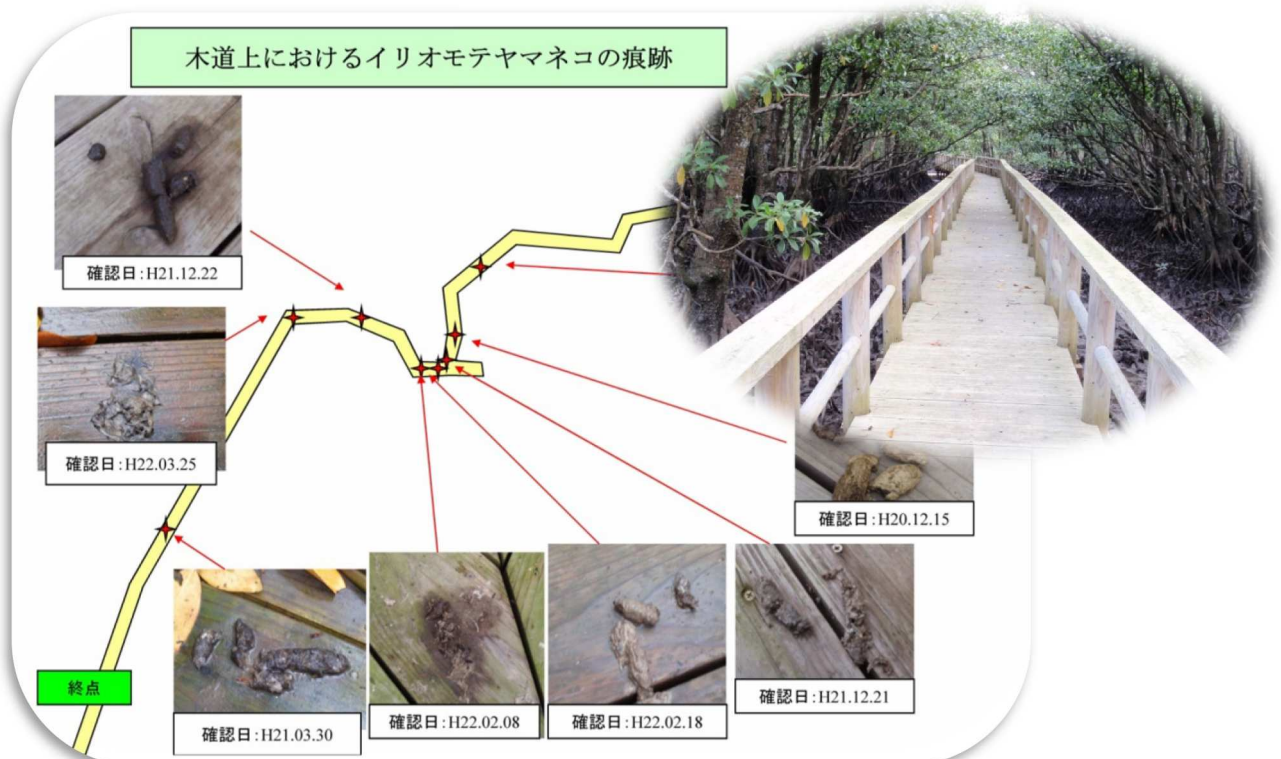
ゴバンノアシ

「木道周辺でのガイドによるモニタリング調査」等を取りまとめ

西表森林環境保全ふれあいセンターでは、平成 21 年度ガイド講習会受講者等による仲間川木道(平成 19 年度設置)の利用状況及びイリオモテヤマネコ等の希少野生動植物等に関するモニタリング調査を取りまとめました。その結果、1 年間の利用回数は 133 回、利用者総数は 804 名(ガイド含む)、利用手段別ではカヌーが 104 回、626 名、徒歩では 29 回、178 名でした。平成 20 年度の利用回数と利用者総数は 69 回、393 名(ガイド含む)でしたので利用者が大幅に増えていることがわかります。

希少野生動植物等のモニタリング情報は、イリオモテヤマネコの糞の確認が 5 回(12 月 21 日、12 月 22 日、2 月 8 日(3 地点)、2 月 18 日、3 月 25 日)、この他、アカショウビン、セマルハコガメ、サンコウチョウ、キノボリトカゲ、イシガキトカゲ、トントンミーなどの動物、植物では 4 月 10 日にサガリバナの開花の報告がありました。平成 20 年度のイリオモテヤマネコの糞の確認は 2 回(12 月 8 日、3 月 24 日)だけでしたので、人間だけでなくイリオモテヤマネコの利用も増えていました。

また、5 月 25 日(火)には、木道の両側に広がるマングローブ林内に設置したコドラート 6 区画(1 区画: 10m×10m)についてモニタリング調査を実施しました。その結果、昨年 11 月の調査では生立木 190 本、稚樹 143 本でしたが、今回の調査では生立木 189 本、稚樹 78 本、生立木で 1 本減、稚樹では 65 本の減小となりました。



仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

7月9日(金)、仲間川地区保全利用協定の締結事業者が行う①砂泥の移動、②ヒルギ類の幼木の生長についてのモニタリング調査の支援を行いました。

石垣地方のこの日の干潮時間は11時42分、潮位は40cmとの予測でしたが、この日はさらに潮位偏差マイナス20cmであったため船から川底が見える程に水位が下がっていました。このため、仲間川で運行している遊覧船は、目的地の巨樹サキシマスオウノキまで行かず途中引き返しを行っていました。この途中引き返しは、仲間川保全利用協定の締結事業者、旅行業者そして観光客の理解と協力があってこそ可能なことであり仲間川を保全するための体制が進んでいるものと感じました。

さて、調査結果は、砂泥の移動では調査地点アは昨年7月の調査と比較し約10cmの流失、調査地点イでは前回4月の調査と比較し約6cmの流失となっていました。



途中で引き返す遊覧船



引き返していく遊覧船と調査風景

平成22年4月、5月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況

ヒナイ川の利用状況調査を6月16日(水)、7月16日(金)に、西田川は6月18日(金)にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川の6月期はカヌーツアーが10組(ガイド含め45名)、7月期はカヌーツアーが18組(ガイド含め76名)、レンタルツアーが1組(2名)、計19組の78名でした。6月期は台湾からのカップルも1組いました。

一方、西田川では、カヌーツアー1組(ガイド含め3名)の利用状況でした。



カヌー係留地(ヒナイ川)



サンガラの滝(西田川)

森の巨人たち百選

「仲間川のサキシマスオウノキ」のモニタリング調査を実施

5月17日(月)、及び19日(水)に西表島を代表する仲間川のサキシマスオウノキを保全・管理する観点から、大勢の観光客が観覧する合間を見ながらモニタリング調査を実施しました。17日に生育状況、枝振りの状況、林床植生や着生植物の変化や光環境(開空度)等の調査を、19日に土壌硬度の変化及び調査地点の位置を明確にするための測量を行いました。調査結果では、枝張り、開空度、着生植物などに若干の変化がありましたが、大きな変化は見られないことから順調に生育しているものと思われます。

また、テラス周辺では缶ビールの空き缶、お菓子袋等のゴミが多数確認されました。観光客の皆様、マナーの向上をお願いします。



観光客の皆さん



森の巨人たち百選

「ウタラ川のオヒルギ」のモニタリング調査を実施

6月8日(火曜日)、森の巨人たち百選に選ばれている浦内川支流ウタラ川のオヒルギについて、樹高・胸高直径及び光環境や周辺植生などのモニタリング調査を実施しました。

前回調査と比較し、オヒルギとサガリバナの幼木が約40本増加していました。これは、周辺の光環境の変化が影響していると思われます。また、オヒルギの地際部分にマンネンタケらしきキノコが発生していました。

調査の最中には、カヌーで観光客(3組7名(ガイド含む))の皆さんもやってきました。現地まではカヌー利用で約30分程度かかりますので迷わないようにして下さい。



根際に付着したマンネンタケ

船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

6月25日(金)、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。

当日は、35株あるニッパヤシを1株毎に葉数と葉長、周辺の光環境、塩分濃度等の調査をしました。

調査結果として、ニッパヤシの葉数は多くなり、葉長が短くなりつつあります。これは平成17年と19年度に実施したオヒルギ等の除伐により周辺の光環境がよくなったことによる効果だと思われます。さらに、川沿いのニッパヤシの成長が内陸部のニッパヤシよりも良好に推移していることから、ニッパヤシの成長には適量の水分が欠かせないものと言えそうです。

また、ニッパヤシの葉に取り付けていた調査用の標識(タグ)が見えにくくなっていたことから7月22日に取替作業を実施しました。

西表島の植物

オオバエゴノキ

学名 : *Styrax japonica* var. *kotoensis*.

科名 : エゴノキ科

属名 : エゴノキ属



分 布

エゴノキは国内では北海道から沖縄県まで分布しています。

形 態

樹高は、7～8m程度で落葉性の小高木です。

葉は互生し卵形等をしており、葉の縁は鋸歯があるか全縁となっています。

花は初め淡い緑色、その後白くなります。まれに紅色があると言われています。

オオバエゴノキはエゴノキより葉が大きく、エゴノキ同様、種には毒（サポニン）が含まれています。

職員の異動のお知らせ (平成22年8月1日付)

—— お世話になりました (^_^)/~~ ——

自然再生指導官 田上 正文 (担当：外来種対策、希少樹種の保護・保存)

転勤先：大隅森林管理署（鹿児島県鹿屋市）流域管理調整官



2年前、夏真っ盛りの地（石垣市）に赴任した暑い日のことを思い出します。西表島の国有林をフィールドとする自然再生業務の中、当センターの活動・取組内容の多さに圧倒されましたが、外来種（移入種）対策、各種モニタリング調査・支援活動・森林環境教育等の業務に従事することで徐々に会得することが出来ました。

この2年間、健康面にも恵まれて無事に勤務できたこと、日本の殆ど最西端の地での生活など貴重な経験を得ることができたことが、一番の思い出となりました。ありがとうございました。

*** よろしくお願ひします。 m(_)_m ***

自然再生指導官 山下 憲明 (担当：外来種対策、希少樹種の保護・保存)

前任地：北薩森林管理署（鹿児島県さつま町）流域管理調整官



前任地では、流域森林における民有林と国有林の連携などの調整や、地域住民との自然再生事業などに携わりました。

八重山地方は、以前仕事をさせて頂きましたので地理的状況は把握していたつもりですが、改めて八重山の素晴らしい自然を目の当たりにして感動しています。新しい業務を通じ、西表島の自然を発信できるように精励したいと思いますので宜しくお願いします。

林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>